

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2011 年 10 月 24 日

派遣者氏名（専門分野）	松岡 佳世（ 美学 ）
-------------	-------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	写真からみるハンス・ベルメールの作品世界
-------	----------------------

派遣期間

2011 年 8 月 23 日 ～ 2011 年 9 月 2 日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問研究機関	フランス	パリ	フランス国立図書館	なし
	同上	同上	フランス国立美術研究所付属図書館	なし
	同上	同上	ジャック・ドゥセ文学図書館	なし

派遣先で実施した研究内容

報告者は現在上記のテーマで本年度修士論文を執筆する予定で研究を進めている。ハンス・ベルメール（Hans Bellmer, 1902-1975）は、球体を関節にもった独特の少女人形、球体関節人形を制作したことで知られているが、同時にその写真撮影から現像にいたるまでも自ら行っていた。このことから報告者は、なぜ制作した人形を、さらに写真という方法で表現せねばならなかったかを分析し、その制作活動を再考する契機としたいと考えている。しかしながら現在手に入れることができる資料の限りでは、ベルメール自身、写真について言及しているものが少ないうえ、ほとんどの展覧会をパリやドイツで行ったベルメールの作品は、カタログ媒体であっても日本では見られる数に限界がある。そのため、数少ない傍証をつなぎあわせていく他なく、論文作成上、客観的証拠となるものをあげることが難しい。よって報告者は、今回の横断的研究視察プログラムにおいて、パリに文献及びビジュアル資料を収集／分析し、修士論文を補強したいと考えた。

今回の派遣では、主にベルメール存命時の交友関係を知るための手稿、ミル収容所での活動を知るための資料、そして日本では確認できないヴィジュアル資料を、パリ国立図書館をはじめとするパリ市内の図書館において閲覧することを目標とした。

まずパリ国立図書館(BnF)において閲覧できた資料としては、

- ①ベルメールと当時深い交流のあったギャラリー・フランソワ・プティをはじめとするベルメールの展覧会を行った画廊の展覧会カタログ、及び貴重資料室にてダニエル・フィリパッチ・コレクションのクリスティーズ・パリでの販売カタログなど合計約 20 冊
- ②ベルメール存命時に交流のあった友人、作家仲間、家族などのインタビューを収集したフランスのラジオ番組（ベルメールの唯一といってよい本人音声含む）HANS BELLMER OU LES JEUX DE LA POUPEE の録音資料

③最後の恋人ユニカ・チュルンを巡る、ユニカの元恋人、アンリ・ミショーとの往復書簡

また、フランス国立美術研究所附属図書館(INHA)では主にベルメールが第二次世界大戦中収容されていたミルの収容所での活動や生活状況を示す資料を閲覧した。

ヴィジュアル資料については、複製可能なものについては複製を依頼してできるだけ国内へ裏面に続くができないものは持ち帰ることができるようにした。また、複製不可能な作品については、撮影可能なものについては写真撮影を行いデータ化した。撮影も不可能な場合は、簡単な模写を行い、これまでの自らの研究で得られている情報や見てきたヴィジュアル資料と比較し、気づいた点、参考となるだろう点などを書き込んで持ち帰った。文献資料に関しては、全体の量もかなり多く、派遣者の語学能力では全てを精緻に読みこなすことは不可能であったため、図版に付随する短い文章や特に複製不能なものに関してはその場でできる限り読むことに集中することとなった。

以上の書籍の閲覧において、日本国内での書籍から考えていたベルメールの交友関係、そしてその交友関係の濃度が異なる可能性を感じとることができた。また、詳しくは別紙の図書館利用マニュアルにおいて記すことにするが、ビジュアル資料や貴重書の利用の仕方について、滞在中の研究ミーティングの際に、他メンバーやフランス留学中の先輩方にアドバイスをいただくことができたことも非常に資料閲覧とスムーズな図書館利用につながった。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

ベルメールの未見のヴィジュアル資料に関しては、画廊のカタログを参照することでかなりの数閲覧できた。国内で見ることのできる人形写真や版画などの資料の下書きとなっているのではないかと報告者が考える作品もいくつか確認した。

また、ベルメールのミル収容所時代に関する文献からは、ベルメールが収容されている間も人形写真への色づけ作業を行っていることを確認することができた。このことから、写真を撮るだけでなくその再構成を行うベルメールの写真制作活動の持続を裏付けることができた。また、収容所時代の交友関係も詳細が明らかとなり、引き続きその後の制作への影響にも言及する余地があると判断した。

しかし、恐らく博士後期課程において研究予定をしているシュルレアリスムとベルメールの関係を考える上で最も重要度の高かった、ベルメールとアンドレ・ブルトンの間でかわされた往復書簡は、INHAのサイトから提供される AGORHA という検索ページでは分からなかったものの、ジャック・ドゥセ文学図書館にて管理されており、実際は所蔵者が遠隔地に在住していたため所蔵者の連絡先を入手するに留まった。こちらの訪問は日程的に無理があったため、再度事前連絡の上、資料閲覧をはかりたい。

派遣後の研究発表の予定

- ・ 10月29日に行われる横断的研究視察報告会での成果発表
- ・ 調査結果を反映させた修士論文の執筆。